

心理支援ツールを活用した親子プログラム

—児童相談所における親子関係再構築支援—

Prototype of Parent-Child Communication Program using Psychotherapeutic Activity Tools:
Support for the reconstruction of parent-child relationships in a Child Guidance Center

中村 泰子

NAKAMURA Yasuko

大阪市中央こども相談センター

Osaka City Central Child Guidance Center

Key words: 心理支援ツール, 親子プログラム, 親子関係再構築支援

目的

児童相談所の機能について、法改正により親子関係再構築支援の重要性が明示された。心理支援ツールは、こどもの心理的ケアや家族再統合支援を目的に、非言語的アプローチの効果への着目から開発された。ツール活用は気づきや笑いにつながりやすく、自己認識やコミュニケーション促進の効果がある。発表者は、被害ケア、加害再発防止対応、保護者支援の実践を踏まえ、ツールを活用した親子プログラムの取組を進めてきている。心理支援ツールを活用した親子プログラムの取組を整理し、考察した。

方法

実施時期：20XX年～20XX+7年

対象：社会調査や心理アセスメントをもとに親子支援が必要とみなされた親子

参加者：親子(2～4人)、担当の児童福祉司や児童心理司。家族再統合担当はプログラム進行役。

プログラム：初回に予定表(図1)を提示し、プログラム説明をした。テーマと内容は対象に合わせて選定、回数は3～5回(表1)、1回60～90分、月1回程度のペースとした。

倫理的配慮：本研究で個人情報は取り扱っていない。発表については所属の承認を得た。

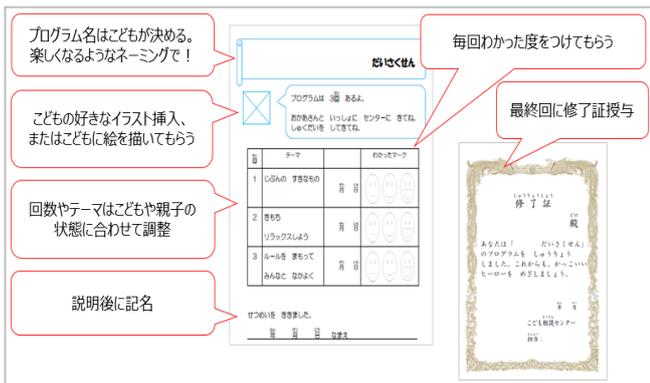


図1. 親子プログラムの予定表例

表1. 親子プログラムのテーマと内容例

セッション	テーマ	内容例
-	オリエンテーション	プログラム概要の案内、ニーズ確認、日程調整
1	好きなもの/大事なもの	わたしの木、ふりかえりカード
2	気持ち/リラックス	いろいろな気持ち、イライラ怪獣、深呼吸とリラックス
3	ルール/プライベート	行動の信号機、安心な生活できるかな、境界線のルール、プライベート、すごろく(ルールを守ってみんなと仲良く)
4	コミュニケーション	困ってますゲーム、アサーション
-	修了式/ふりかえりの会	修了証授与、家族ミーティング

結果

親子交流支援中に心理支援ツールを単回活用した親子は、支援経過中に親子関係を見直すべき局面となり、支援者からの提案でツール活用を取り入れた。親子でツール体験することで、興味関心の気づき、考えや感じ方、規範意識や判断基準についての類似点や相違点などの共有ができた。ツール体験時に笑顔や発言が増え、親子双方の理解やコミュニケーションが促進された。プログラムの感想では、「楽しかった」「わかった」などが多かった。図2に取組経過、表2に各ツールの効果をまとめた。

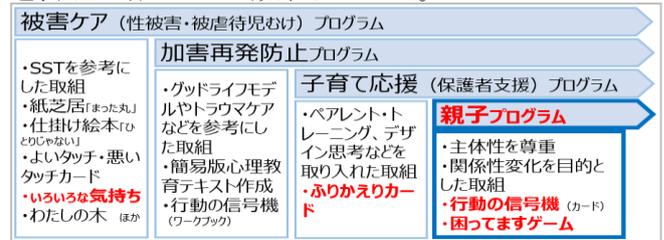


図2. 親子プログラムの取組経過

表2. 各ツールの効果

ツール	取組例にみられた効果
ふりかえりカード	自分の考え方や価値観に気づく。お互いの大切なものを知ることで、家族のあり方を考えるきっかけになる。
いろいろな気持ち	どんな場面でどんな気持ちになるか、いろいろな気持ちに気づく。人による感じ方の違いを知ることができる。
行動の信号機(カード)	どんな出来事でどんな行動をとると犯罪につながるか、危険な結果や安全な結果につながる行動について考え、規範意識や善悪の認識を整理・共有できる。
困ってますゲーム	困ったときの話し方・聞き方のスキルが遊びながら身につく。

考察

児童相談所の相談対応では、親子それぞれから話を聞き、親子合同でも話を聞く。関係がこじれた状況では、保護者から、生活上のエピソードが否定的に語られやすい。事実関係を明確化するため、こどもからも状況や言動の意図、気持ちを聴取するが、こどもは言語化が難しいことが多い。関係性が悪化すると、保護者も感情鈍麻に陥り、こどもの気持ちに寄り添いにくくなる。親子関係を丁寧に解きほぐし、関係性の膠着や悪循環を緩和・解消するには、多角的な視点や発想の転換が欠かせない。心理支援ツールの活用では、視覚や触覚の感覚を通して自己認識や言語化が促される。視覚・触覚の手がかりによって身体感覚が呼び起こされ、意識下に光が当たることで、気づきにつながると考えられた。ツール体験でコミュニケーションが促進される背景には、体験を共にすることで、連帯感や共感性が強まる側面もある。今後、ツール体験での自己認識やコミュニケーション促進が生活場面にも反映されるには、どんな要素や工夫が必要か、検討していきたい。